学校番号	３０２

令和８年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「地学基礎　新訂版」　（実教出版）						
副教材等	ビジュアルプラス地学基礎ノート改訂版　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校の教科としての理科と高校の科目の中の地学の違いがあります。違いを明確にして、地学で何を学ぶのかを 理解しながら学習に取り組みましょう。最終的には、学んだことを日常生活に活かすことが重要です。例えば、防災対策などです。そのためにも、『なぜ雨は降るのか』、『なぜ地震は起きるのか』などのありふれた日常の現象に関心を持つことを大切にしましょう。日常の現象のメカニズムを理解すると、将来の危険を回避できます。さらに自然に対する見方が変わってきます。まずは身の回りの現象に対して疑問をもつことが最初の第一歩です。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
日常生活や社会との関連を図りながら、地球の構成や宇宙の成り立ちを学ぶ。
【思考力、判断力、表現力等】
自然科学的な考え方を身につけ、常日頃から身の回りの自然現象に対して探求的な視点で観察を行う力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
地球や地球 を取り巻く環境への関心を高め、日常生活に影響を及ぼす自然災害への対策を検討する。 全体を通して目的意識をもって観察・実験などを行い、論理的に探求する能力と態度を育てるともに、地学の基本的な概念や原理･法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理･法則を理解し、知識を身につけている。	地球や地球を取り巻く環境に関する事物･現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち,意欲的に探究しようとする。同時に, 地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど,科学的な見方や考え方を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	宇宙の構成	太陽と恒星 宇宙のすがた	a:理科用語を正確に覚え、様々な自然現象について理解を進める b:図や表から得られた情報をもとに答えを導き出し、適切に表現することができる c:授業の内容について意欲的に取り組み、努力の姿勢が見られる	①定期テスト ②小テスト	①定期テスト ②授業プリント	①授業プリント ②小テスト
	惑星としての地球	太陽系の天体 太陽系の誕生と地球の進化	a:理科用語を正確に覚え、様々な自然現象について理解を進める b:図や表から得られた情報をもとに答えを導き出し、適切に表現することができる c:授業の内容について意欲的に取り組み、努力の姿勢が見られる	①定期テスト ②小テスト	①定期テスト ②授業プリント	①授業プリント ②小テスト
2学期	活動する地球	地球の構造 プレートの運動　地震と地殻変動	a:理科用語を正確に覚え、様々な自然現象について理解を進める b:図や表から得られた情報をもとに答えを導き出し、適切に表現することができる c:授業の内容について意欲的に取り組み、努力の姿勢が見られる	①定期テスト ②小テスト	①定期テスト ②授業プリント	①授業プリント ②小テスト

		防災 地震 火山	a:理科用語を正確に覚え、様々な自然現象について理解を進める b: 地震に関する知識をもとに、自身に必要な防災対策（避難グッズの選定など）を行うことができる c:授業の内容について意欲的に取り組み、努力の姿勢が見られる	①定期テスト ②小テスト	①定期テスト ②授業プリント	①授業プリント ②小テスト
3学期	大気と海洋	地球の熱収支 大気と海水の運動	a:理科用語を正確に覚え、様々な自然現象について理解を進める b: 日常に隠された自然現象を、ヒントを使って解き明かし、適切な表現で説明することができる c:授業の内容について意欲的に取り組み、努力の姿勢が見られる	①定期テスト ②小テスト	①定期テスト ②授業プリント	①授業プリント ②小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度